

2012年第2回日本地球化学会評議員会議事録

2012年6月～8月に電子メール会議として開催した。ただし、第1回評議員会以降、6月までに電子メールで審議された緊急案件も含む。カッコ内は審議期間。

1. 審議事項

1.1. 2011年度GJ論文賞授賞者決定(3/22-23)

岩森選考委員長から選考委員会にて審議した結果以下の論文を選定したとの報告があり、承認された。
Saeko Fujiwara, Koshi Yamamoto and Koichi Mimura, “Dissolution processes of elements from subductingsediments into fluids: Evidence from the chemical composition of the Sanbagawapolitic schists”,
GeochemicalJournal, Vol. 45, pp. 221 to 234

1.2. 原子力シンポジウム共催について(5/11-17)

共催分担金(5,000円)の支出について了承された。運営委員は松尾基之会員に依頼。

1.3. 年会セッションについて(5/13-18)

平田企画幹事から「学会基盤セッション」(評議員が中心となりとりまとめたもの)が17、「特別セッション」(一般公募したもの)が6、計23 セッションが提案されたとの報告があり、1セッションの軽微な名称変更の後、了承された。

1.4. 日本地球惑星科学連合(JpGU)大気海洋・環境科学セクションの名称変更について(5/28-30)

JpGUから会長宛に意見照会のあった、大気海洋・環境科学セクションの名称変更案「大気海洋陸水・環境科学セクション」について了承された。

1.5. Goldschmidt 国際会議(GC)日本開催について(6/1-5)

会長から米国Geochemical Society (GS)から2016年のGC日本開催について打診があったとの報告があった。開催を可とし、検討を開始するGC開催検討TFメンバー(吉田会長、平田・益田・佐野評議員、鈴木勝彦・上野雄一郎会員の計6名)が承認された。開催時期については6-9月に意見が集約されたが、開催場所については様々な意見が出された。

1.6. JpGU科研費成果公開促進費対応臨時委員会について(6/1-4)

欧文誌出版助成に関わる科研費制度が来年度から大幅改訂される予定で、JpGUとの連携が必要になった。JpGUがこれに関する幹事会を設置することになり、本会からの委員派遣について打診があった。幹事会と出版WGでの検討に基づき以下の提案が会長から出され、承認された。

1. 今回、最初の段階でJpGU幹事会に新たに本会会員に参加いただくことを申し出ない。
2. JpGU副会長でもある川幡評議員には、引き続き、情報収集と会長・幹事会・評議員会へのレベルに応じた情報提供をお願いし、本会会員としての発言も必要があればしていただく。
3. JpGUが立ち上げる新JournalのEditorial board memberとしては、例えば、小嶋会員あるいは同等な方を入れていただくようにする。
4. いずれ(かなり早い段階かもしれないが、)横串としてのJournalの存在についての議論に入ろうとする段階では、幹事会に本会会員を新たに加えるよう提案する。

1.7. 副会長複数制について(6/6-16)

副会長複数制について、学会組織改革タスクフォース(TF)での議論に基づく以下の提案趣旨と会則改

正案が審議された。副会長複数制については承認されたが、2名の副会長の役割分担について慎重な検討が必要だとする意見が出された。

趣旨:

少子高齢化で会員数減少が一般的となる難しい社会情勢のなか、国内的にも、国際的にも本会を取り巻く環境の変化に対応して、本会の活動の戦略的な運営が求められている。会員数の維持・拡大や年会の正常発展、雑誌出版、財政など、以前に増して、学会内で緊急に意思決定すべきことが多くなってきている。国内においては、連合および他学会・研究会、出版社との関係など、重要で遅滞のない、かじ取りが要求される。一方、国際的にも、Goldschmidt Conference(GC)の運営や、GSやEAG、および中国を初めとしたアジア・オセアニアとの関係強化など国際連携の必要性が強くなってきている。

これまでの副会長1名の体制を改正し、副会長(国際対応)と副会長(国内対応)の2名体制とし、会長への集約を密に行うことで、会務の円滑な運営とともに、中長期的な継続性が強化されると期待される。

1.8. JpGUのパートナーシップ・ジャーナルへの合流について(6/7-14)

1.6の審議事項に関連して、今後、GJとJpGUのジャーナルとの連携は強まることが予想される。そこで、一昨年、JpGU事務局から提案のあった「パートナーシップ・ジャーナル」に合流し、JpGUの広報活動を通じて国内外でGeochemical Journalを宣伝してもらうという案が折橋評議員から出され、承認された。なお、本会が負う義務はGJ表紙にJpGUロゴを入れることである。

1.9. 学会賞等授賞者について(6/8-15)

学会賞1件、奨励賞3件、功労賞1件の推薦に対して選考委員会にて審議した結果、学会賞に杉浦直治会員、奨励賞に川口慎介会員、長島佳奈会員、澁谷岳造会員をそれぞれ選定した旨、岩森選考委員長から報告され、承認された。

1.10. GCタスクフォース(TF)に対する要望等について(7/26)

GC-TFの第1回会合(7月20日(金))の議事録および日本政府観光局より入手した会場候補比較表が会長より提示されたが、TFに対する要望は特に出されなかった。

1.11. 和文誌新表紙について(8/15)

高橋編集長より、次回評議員会の議案として、GJの表紙変更を受けた「地球化学」の表紙改訂が提案され、素案について意見照会があった。

2. 報告事項等

2.1. 会長

2.1.1. 日本地球化学会と中国鉱物岩石地球化学会間研究交流のMOU(覚書)締結(7/26)

8年ほど前から懸案であり、昨年の総会でご了承いただいた表記MOUの調印式を7月16日に北京で行いましたことをご報告申し上げます。本会HPの写真にあるように厳かに、かつ和やかに行われました。本会からは海老原前会長、張富山大教授と吉田が、中国側からは劉中国鉱物岩石地球化学会会長と10数名の幹部の先生方が参加されました。日程調整の関係で延びておりましたが本年1月1日に遡って締結されました。調印式後、双方の学会紹介、ここに至る経緯が披露されたのち、今後の交流について意見交換をいたしました。その折に、先日のニュースでご報告したGC2016に関するこれまでの情

報交換と、今後の協力関係についても建設的な意見交換をまいりました。大変一般的なMOUですので、会員の皆様の活動がこのMOUのもとさらに広がることを期待したいと存じます。

2.1.2.学会からのお知らせ「大震災関連」(9)

Geochemical Journal特集号Fukushima Reviewが全文オープンアクセスで公表されました。昨年3月の福島第一原子力発電所の事故に起因する放射性物質の放出と拡散が問題となっています。本会および本会会員は初期から活動を展開して来ました。その中で、昨年8月にプラハで行われたGoldschmidt国際会議において、本会はFukushima Reviewという 特別セッションを国際的に共催し、昨年9月に札幌で開催された年会において、災害による環境汚染および復興の地球化学という特別セッションを年会と共催しました。

これらの機会にご講演いただいた演者の方々を中心に、海老原充会員、吉田尚弘会員、高橋嘉夫会員をGuest editorとしてGJ誌にFukushima Reviewという特集号を企画し、投稿を呼びかけ、Preface1編と原著論文12編、およびすでに出版されているが関連するNoteとE-letter各1編を加えて、ウェブ <http://www.terrapub.co.jp/journals/GJ/FukushimaReview.html> 上で、全文オープンアクセスで公表されました。関連する論文ということもあり特集号内論文でも、また他誌ではありますがほぼ同時に公表されたPerspective, Reviewなどとも相互引用をすることで内容を深め、周知が図られました。ご投稿いただいた著者の方々、Guest editor, Editorの皆様に深く感謝いたします。それとともに会員の皆様にも広くお読みいただければ幸いです。まだ現在進行形の災害でもあり、今後もこのような研究とその公表の場が持たれると思います。その一歩となれば幸甚に存じます。

2.2. 庶務(豊田幹事)

2.2.1.第1回鳥居基金の選考結果

・6件の応募者(うち1件は3月16日に取り下げ)の中から尾崎 和海会員(第22回ゴールドシュミット会議での研究発表、カナダ)および安田 早希会員(2012年度日本地球化学若手シンポジウム)が採択された。

2.2.2. GJ賞授賞式準備

・会長から OC 委員長およびプログラム委員長に対して受賞講演の可能性を打診していたところ、初めて認められ、受賞講演の機会を与えられた。受賞者に打診したところ辞退されたので、結果として受賞講演は行われなかったこととなった。次回以降、引き続きこのような機会をもてるよう努力したい。

・盾(筆頭著者)は清田工芸に、賞状(著者全員)は東陽印刷に発注した。なお、今年から GJ の表紙デザインが更新されたことから、盾および賞状に記されるロゴについて検討した。GJ の新ロゴはデザインが複雑で盾の金属製銘板には不向きと考えられたため、学会ロゴを使用することとした。

2.2.3. 協賛、共催、後援

・国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会(IAVCEI2013 Scientific Assembly, 2013年7月20-24日,日本火山学会主催,鹿児島市、後援)

・第40回可視化情報シンポジウム(7月24-25日、工学院大学新宿キャンパス、協賛)

・原子力総合シンポジウム2012(10月、共催)

2.2.4. 各種表彰の推薦

- ・第9回日本学術振興会賞 候補者の推薦受付(2月28日メールニュース配信)、3月31日の庶務幹事宛締切までに応募はなかった。

- ・第3回日本学術振興会 育志賞 候補者の推薦受付(3月22日メールニュース配信、5月31日庶務幹事宛締切)現在応募ゼロ

2.2.5. 年会準備関係

- ・H24科研費「研究成果公開促進費」(一般向け講演会用に昨年度申請)は不採択。所見「企画の意義は理解できるが、ここに示されたいいくつかの独立なテーマの単なる講演会のみでは、主に高校生を対象とした企画としては、啓蒙の効果にやや疑問が残る。」

- ・共催依頼:日本化学会、日本分析化学会、日本鉱物科学会、質量分析学会(相手側の要望により協賛とする)、日本地質学会

2.2.6. 2012年第2回幹事会(5月20日(日) 12:00-17:05、東工大大岡山キャンパス)

出席者:吉田会長、山本副会長、塚本・GJ編集委員長、高橋・和文誌編集委員長、下田、原田、平田、南、豊田の各幹事

第2回評議員会の議案整理を行った。

2.2.7. GJ科研費(研究成果公開促進費)

- ・昨年度状況報告書、実績報告書提出(三澤前幹事)

- ・競争入札(3/29 実施、テラパブが落札)

- ・今年度交付申請書提出(5/11)

- ・日本地球惑星科学連合(JpGU)「学術情報発信 緊急説明会」(2月17日(金) 15:00-16:00、東京大学理学部、折橋評議員が出席)

- ・JpGU第1回科研費成果公開促進費対応臨時委員会(3月15日(木) 11:00-12:30、東京大学理学部、庶務幹事が出席)

- ・文科省およびJSPSによる、研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の改正に関する説明会(5月16日(水)14:00-15:30、スクワール麹町、庶務幹事が出席)

2.3. 広報(原田幹事)

2.3.1. 講師派遣事業

2012年5月現在の派遣講師登録は19名、2012年は5件の派遣実績(上尾市立西中学校(瀧上豊会員)、市立土佐女子中学高等学校(板井啓明会員)、北陸電力エネルギー科学館(橘省吾会員)、大分市立滝尾中学校(川本竜彦会員)、広尾学園中学校高等学校(丸岡照幸会員))

2.3.2. 連合大会、Goldschmidt2012でのブース出展

学会の新パンフレット、GJ express letter のちらし改訂版、学会誌バックナンバー等の展示、ノベルティ(ボールペン)配布、会員著書販売等を行った。

2.4. 企画(平田幹事)

2.4.1. 日本地球惑星科学連合大会(5月20~25日、幕張メッセ)

地球化学会が活動支援してきた「固体地球化学・惑星化学」(固体地球化学セッション:コンビーナ下田、鈴木(勝)、山下会員)に加え、今年から「地球化学の最前線」(領域外・複数領域セッション:コンビーナ

高橋、平田、角皆、鍵、鈴木、横山(祐)、横山(哲)、小畑、橘会員)が立ち上げられた。

2.4.2. 2012年ゴールドシュミット国際会議(2012年6月24-29日、カナダ・モントリオール)

地球化学会として協賛金(3000ドル)を支援。日本地球化学会会員は登録費が100ドル割引。

2.4.3. 第59回年会(2012年9月11-13日、九州大学箱崎地区文系キャンパスおよび大学院理学研究院)

実行委員長は吉村和久会員。「学会基盤セッション」(評議員が中心となりとりまとめたもの)が17、「特別セッション」(一般公募したもの)が6、計23セッションが提案された。6月中旬から講演申し込みを開始、7月中旬にプログラム委員会を開催する予定。今年も学生賞を開設し、最終日にクロージング・セレモニーを開催し学生に発表賞を授与する。学生賞の選考方式については、現在、評議員の間で議論を進めている。年会に合わせて一般市民講座を開催予定(内容は未定だが宇宙関係、資源探査関係を予定)。H24研究成果公開促進費は不採択であった。年会前日(9月10日)にショートコースを開催予定。5つの講演が確定。HPを開設し、6月から参加申し込みを開始予定。

2.5. 会員(下田幹事)

2月から4月までの会勢は以下の通り。

日本地球化学会会員数(2012年4月30日)

会員種別	人数	契約口数	GJ冊子希望	GJ冊子不要
一般正会員	732		306	426
学生正会員	129		70	59
うち、学生パック	(39)		(19)	(20)
シニア正会員	58		31	27
賛助会員	10	10	9	1
名誉会員	11		6	5
合計	940		422	518
(寄贈)			17	
(GJ発送総数)			439	

会員異動(2012/2/1~2012/4/30)

【入会】

(2月)

会員番号	会員名	会員種別
9282676	淵田 茂司	学生パック
9282788	春田 泰宏	学生パック
9282791	高木 悠花	学生パック
9282794	丸井 敦尚	一般正会員
9282797	下條 将徳	学生パック

(3月)

9282790	木本 洋	学生正会員
9282795	申 ギチヨル	一般正会員

(4月)

9282796	野津 太一	学生パック
9282799	野口 直樹	一般正会員
9282801	石田 大也	学生パック

【退会】

(2月)

会員番号	会員名	会員種別	備考
6280594	高江洲 瑩	シニア正会員	
8280136	池田 耕三	一般正会員	
9282659	河野 麻希子	学生正会員	

(3月) なし

(4月) なし

【会員種別変更】

(2月) なし

(3月)

8280437	大森 保	一般正会員	シニア正会員
---------	------	-------	--------

(4月)

9282487	鈴木 和博	学生正会員	一般正会員
9282694	尾崎 和海	学生正会員	一般正会員
9282701	村井 彰宏	学生正会員	一般正会員
9282705	高田 理恵	学生正会員	一般正会員

2.6. GJ(塚本編集委員長)

2.6.1. 発行・編集状況(5月20日現在)

2012 年 vol. 46, No. 1、2 は2、5 月にそれぞれ発行された。4月30日現在の投稿数は60報、うち受理3、却下13、審査中44となっている。特集号は、2011 年ゴールドシュミット会議「Fukushima Review」および第58回年会「災害による環境汚染および復興の地球化学」に基づく特集号(首都大・海老原、東工大・吉田、広大・高橋の各会員)、第57 回年会「南太平洋-パタゴニア地域の地球化学総合研究」に基づく

特集号(東大・折橋会員)、第58 回年会「水圏環境地球化学—佐竹洋先生記念シンポジウム」に基づく特集号(富山大・張会員)がそれぞれ担当者により編集中。

2.6.2. その他

地球化学会とテラ出版のGJ ホームページが今期版に改訂された。Free Recent Papers Selected by Editorial Board に1号から1編ずつ追加することをテラと約束、選考は編集長と副編集長で行う。ゴールドシュミット会議のセッションに基づく特集号の掲載論文を発行次第、GJ ホームページ上でフリーアクセスとすることをテラと約束、初回は「Fukushima Review」の特集号となる。本年のゴールドシュミット会議のコンビナーの方は是非検討をお願いしたい。該当がない年は、この枠をその他の国際会議特集号に代えることをテラと交渉したいので積極的に特集号編集の検討をお願いしたい。投稿数に対する編集委員不足からAE の補充を検討中。GJ 秘書経費(60 万円, 手数料472 円)を執行した(2012 年2 月7 日)。

2.7. 和文誌「地球化学」(高橋編集委員長)

2.7.1. 記事掲載予定

【2012年Vol. 46, No.2】「特集:東日本大震災から1年」、特別寄稿:海老原充、福島第一原子力発電所事故に対する地球化学会の取り組み(済)、総説:加藤愛太郎、2011年東北地方太平洋沖地震の特徴について(済)、総説:鶴田治雄、放射性核種の挙動(遅れている)、企画総説「地球化学の最前線」:高野淑識、カ石嘉人、大河内直彦、分子内同位体比で観る海底下のアーキアの生態:エーテル脂質分子内のサルベージ経路と新生経路を例にして(済)、博士論文抄録:内藤裕一、骨コラーゲン構成アミノ酸の窒素同位体比を用いた先史日本人集団の食性復元(済)、シュバシシュ クンドウ、海洋エアロゾルおよびバイオマス燃焼エアロゾル中のジカルボン酸、ケトカルボン酸、 α -ジカルボニルの分布とエアロゾル窒素・炭素の安定同位体組成に関する大気化学的研究(済)、鈴木和博、海山型石灰岩体のSr同位体組成に関する研究—浜名湖西方地域秩父帯石灰岩体を例として—(済)、朝比奈健太、地球環境変動解析の基盤となるクロロフィルの続成変化の解明(済)

2.7.2. 現在の投稿状況

投稿論文:原著論文1件、総説1件、その他:受賞記念論文1件、博士論文抄録1件

2.7.3. 特集号「地殻流体」(No.4): 総説6件予定(3件投稿済)

執筆予定者:石川剛、岡本和明、加藤愛太郎、西尾嘉朗、平賀岳彦、藤永公一郎・加藤泰浩、山本順司

(庶務幹事・豊田栄)